

Santuário da Senhora da Agonia

について

嘆きの聖母の聖地 [Santuário da Senhora da Agonia]

聖母マリアの聖地となったのは18世紀です

嘆きの聖母祭 [Senhora da

Agonia]はおそらくこの地域で最も有名な聖地巡礼行事です。8月15日以降の週末にかけて(聖母被昇天の祭典の日)[Solenidade da Assunção da Virgem] 祝福します。通常、民族的特徴のあるパレードを地上とリマ川にて開催します。リマ川では装飾を施されたボートによるパレードが行われます。この宗教的パレードは通りを行進する際に聖母の肖像を掲げ、通りは花のカーペットで飾られます。

嘆きの聖母に捧げるこの宗教儀式の起源は18世紀まで遡ります。漁業に従事する人々が嵐に遭ったりや難破した際に受けた愛に感謝する、あるいはその愛を祝福したことに関連しています。

それ以前の1674年には、磔刑となった善良なるイエスの聖なる墓地[Bom Jesus do Santo Sepulcro do Calvário]をまつる礼拝堂が現在の聖地の場所に建てられていました。18世紀初頭にはすでに聖母マリアがまつられていました。1706年にはこの教会を悲しみの聖母教会[Capela de Nossa Senhora da Soledade]として言及する記述があります。1744年には現在の嘆きの聖母という名で知られていました。18世紀の後半にはそれまでの礼拝堂が拡張され、1759年にこの教会に祝福が与えられました。1783年から荘厳ミサが毎年8月20日に執り行われています。この日は町の祝日となり、聖地巡礼の起源となりました。

19世紀には、現在見ることができる中央部の階段の建設をはじめとする、幾度かの介入および拡張工事が実施されました。内部の身廊は八角形の間取りになっており、そこから主祭壇へとつながっています。祭壇飾りや説教壇はいわゆるブラガのタルハ・ゴルダ・ウッドカービング[Braga] [talha gorda]で装飾されています。説教壇の講壇には磔刑像が置かれ、その上部には嘆きの聖母の肖像が描かれています。伝道者の肖像やイタリアの画家パスコル・パレンテ[Pascoal Parente]が描いたキリストの受難などの幾つかの油彩画や18世紀のオルガンを鑑賞することができます。最古の奉納物は1733年のものです。

教会の別館にはチャプレンの住居があり、聖具室の上に位置しています。教会会議場では、後援者の肖像画が複数展示されています。後ろに立つ塔は1868年に建設されました。この塔は教会の建物を囲んで並び巡礼者の邪魔をしないように離れた場所にあります。

嘆きの聖母の巡礼の見所は巨人[gigantones]と大頭[cabeçudos] (big heads) のパレード、そして民族衣装祭りです。これらを目当てに数多くの人がヴィアナ・ド・カステロを訪れます。

問い合わせ先

Rua de Monserrate / Campo da Agonia 4900-354 Viana do Castelo

電話 : +351 258 822 508 / 258 824 067

バリアフリー案内

入口へのバリアフリー経路

- 全部

建物内のバリアフリー通路

- 一部